

第4回胎内市立中学校再編検討委員会 会議録

1 開催日時 令和6年3月18日(月) 午後2時から午後2時55分

2 開催場所 胎内市産業文化会館 会議室

3 議 題 これまでの協議について(まとめ)

4 公開・非公開の区分 公開

5 出席者

委員 長	近 孝道
副委員 長	塚野 陽介
委 員	濱中 力也
委 員	丹後 直子
委 員	山田 せい子
委 員	久保 俊幸
委 員	佐藤 光
委 員	松原 利弘
委 員	富樫 新一
委 員	河内 理助
委 員	佐藤 直文
委 員	今井 和彦
委 員	齋藤 聡
委 員	西村 礼子
委 員	上山 夏奈
委 員	菅原 美穂
委 員	中村 彩

教 育 長	中澤 毅
学校教育課長	丹後 幹彦
管理指導主事	池田 裕之
指 導 主 事	山沢 正仁
指 導 主 事	中村 祐一

学校教育係長 横内 和幸
学校教育係主任 菅澤 真人

6 会議資料の名称

資料 第4回胎内市立中学校再編検討委員会～これまでの協議について～

7 傍聴人の数 3人

8 会議の概要

(1)開会

○委員長（近）

年度末の大変お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

これより第4回胎内市立中学校再編検討委員会を行います。開会に先立ち委員会条例第6条2項の規定により、本日の出席者が過半数を越えておりますので、会議が成立したことをご報告申し上げます。なお、本日は2名が都合により欠席となっております。

始めに前回の確認を行います。3つのグループに分かれ、地域とのつながり、きめ細かな指導体制について活発に話し合いをいただきました。委員の皆様からいただいたご意見、ご提言等は今後の貴重な参考資料になります。どうもありがとうございました。

さて、本日の委員会はこれまでの3回の委員会を踏まえ、総括が主な内容になりますのでよろしくお願いします。

最初に前回の会議録と本日の資料の確認を行います。事務局、お願いいたします。

○事務局

<事務局による前回内容の概要説明と配付資料の確認>

○委員長（近）

ありがとうございました。

(2) これまでの協議について（まとめ）

○委員長（近）

それでは先ほど話がありましたように、これからこれまでの協議の確認を行います。最初に山沢指導主事から全体での共通理解を図るために、これまでの会議で話し合われた内容について説明してもらいます。山沢指導主事、よろしくお願いします。

○指導主事（山沢）

それでは、スライドとお手元の資料を基にこれまでの協議についてまとめたものをご説明いたします。

それでは説明いたします。胎内市立中学校再編検討委員会設置要綱より第1条胎内市立中学校の再編について検討し、望ましい学校教育環境の整備に取り組むため、胎内市立中学校再編検討委員会を設置する。このような設置目的のもとで今日を含めまして4回の委員会を開催しております。

第1回は令和5年10月23日、主な内容として、教育長による検討委員会設置の主旨説明、胎内市立小中学校の適正規模等に関する検討委員会の答申内容と今後の方針の説明、グループ協議による今後の方針についての意見交換を行いました。

第2回は令和5年12月20日、10年後中学校はどのような形態でどのような場所に設置することが望ましいのか、主に設置場所と通学方法についてグループ協議を行いました。

第3回は令和6年1月31日、ここではテーマを2つ設け、1つ目のテーマとして仮に4中学校を1つに統合したとして、中学校と地域との繋がりを保つにはどのようにすれば良いか、2つ目のテーマとして仮に4中学校を1つに統合したとして、きめ細かな指導体制を継続するにはどのようにしたら良いかについて、グループ協議を行いました。

以上の内容で3回の検討委員会を開催しました。

第1回のグループ協議の内容のまとめについてです。今後の方針についての意見交換ということで、まずは各グループで今後の生徒数の推移見込み等から10年程度の将来を見据え、市内4中学校の統合に向けた検討を進めるとした今後の方針についてどう思いますかということ各グループで話し合ってくださいました。これについてはグループ協議に参加した委員の皆様、市内4中学校の統合に賛成とした方の割合が100%ということになっています。続いて市内4中学校の統合に際して期待できる点と疑問に思う点をあげていただきました。

期待できる点については、学級編制が可能になり固定された人間関係が解消できる。中学校段階から大人数の集団生活に慣れることができる。大人数で生活することにより切磋琢磨し合う環境づくりやより良い社会性を養うことができる。実施可能な部活動数が増える点などをあげていただきました。疑問に思う点、不安な点も含めてですが、中学校をどこに建てることになるのか。通学の方法はどうなるのか。バス通学、自転車通学の安全をいかに確保するのか。地域に中学校が無くなることで地域の元気が無くなるのではないかと。生徒数が多くなっても一人一人に丁寧な指導、支援ができるきめ細かな教育が行えるのかというような点をあげていただきました。

これらにより、その後第2回、第3回で「設置場所及び通学方法」、「地域とのつながり」、「きめ細かな教育」の3点をテーマとしたグループ協議を行なうことにさせていただきました。

第2回のグループ協議では、「10年後 中学校はどのような形態でどのような場所に設置することが望ましいのか」をテーマに話し合いをしていただきました。出された意見のうち、案1のアとしましては、市内4中学校を統合し、各地区から出来るだけ等距離の場所に設置することが良いのではないかと。具体的にはふれすぼ胎内周辺という案がありました。この案についてメリットと課題、疑問点、解決策をグループで話し合いました。このふれすぼ胎内周辺のメリットとしましては、学校に関わる施設、例えば体育館、陸上競技場、給食センター、さわやかルーム、B&Gプール、これらが近いということ、駐車場が広く使えそうであるということ、道路が広くバスが通りやすいということ、周辺の企業と職場体験学習等において連携しやすいというメリットがあげられています。これに対して課題、不安、疑問と解決案ということでご説明いたします。まずはバス通学が主になりますので、バス通学により時間に制限が生じるのではないかと。それから特に黒川地区からの距離が長いのではないかと。これに関してはスクールバスの増便やスムーズな運行方法の検討を十分に行う必要があるということで解決を図れるのではないかと。うお話をいただいています。次に民家が少ない、トラックの往来が多い、橋の幅が狭いなど、自転車等による通学の安全面が心配であるということに関しては、大半の生徒をバス通学とすることで安全を確保する方法を取るべきではないかと。うお話をいただいています。次に工業地帯での事故や津波等による水害時に学校に被害が及ぶのではないかと。うお話をいただいています。工場との距離やハザードマップを検討し、より安全な場所に設置す

る必要があるというお話をいただいています。地域とのつながりが薄くなるのではないかということに関しては、地域学習を胎内市全域に広げ、各地域の行事への積極的な参加を促すことができるのではないかと、もう1点はコミュニティ・スクールの仕組みを柔軟に変更する。例えば委員の人数や地域ごとの割り当てを検討することが可能なのではないかと、というお話をいただいています。

続きまして案1のイ、市内4中学校を統合し、現在の中条中学校やその周辺に設置するという案についてのグループ協議の内容です。メリットとしましては、民家があり生徒への見守り体制が取れること、徒歩や自転車通学が出来る生徒が増えること、ハザードマップを見ると水害の危険性が低いということ、現在の中学校体育館や特別教室等の棟を統合後もそのまま使えること。旧中条体育館や中央公民館の敷地を含め、用地の確保が比較的容易ではないかという点がメリットとしてあげられています。課題、不安、疑問とその解決策については、バス通学のための道路の確保、これが不安だというお話をいただきました。この点についてはアクセス道路の整備、現在の中条中学校のグラウンドを駐車場にすると、道路からのアクセスを考えた場合に、今のグラウンド周辺であれば各道路から近く容易になるのではないかと、アクセスのしやすさということで駐車場の位置を検討してはどうかというお話をいただいています。次のスクールバスや保護者用の駐車場の確保については、学校から少し離れた駐車場の活用、例えば市役所駐車場などの活用が図れないかというお話をいただいています。続いてバス通学に関して部活動を中学校外、例えば市の体育館や陸上競技場などで行う場合に移動方法をどうするのかというお話をいただきました。これについてはレンタル自転車、使われなくなった自転車があれば寄贈してもらい、これを部活動時の移動用として活用できないかというお話や敷地内に体育館をもう1つ作れば移動の必要が少なくなるのではないかと、というお話をいただいています。中条中学校区以外の地域と学校とのつながりを確保する必要があるというお話に対しては、胎内市全域をフィールドにした地域学習の実施や、前回お話したとおり、現在中条中学校でも行っている市内全域に学習の場所を広げた学習、このようなことを継続する必要があるのではないかと、スクールバスを市内循環のコミュニティバスにして地域の方も利用できるような仕組みはできないものかというお話をいただきました。中条中学校区以外の地域への配慮、これに関しては中条中学校の今ある場所に新設、統合の中学校を建てると、という案ですので、他の中学校区の皆様へは特に地域への丁寧な説明により理解を得る必要があるのではないかと、というお話をいただいています。

そして、同じページの下の方にあります案1のウですが、市内4中学校を統合し、現在の胎内小学校周辺に設置するというアイデアもいただいています。これに関してはメリットとしてバスが通りやすいということとハザードマップによる災害の可能性が低いというお話をいただいています。

次に案2としましては、小学校の校舎を活用した小中一貫型小中学校を設置するという案について検討いただいたグループがありました。この案のメリットとしましては、小中合同の学校行事の開催、地域とのつながりが残ること、小中一緒のバス通学ができるのではないかとのお話をいただきました。課題、不安、疑問については、中条中学校区での小中一貫型小中学校の設置は児童生徒数から難しいこと、1つの校舎で中条中学校、中条小学校、胎内小学校の3つの小中学校が一緒に活動するには少し人数が多すぎるのではないかとということ、もう1つは1学級の生徒数は増えない、特に小規模3中学校の生徒数については、今後1学級20人以下を大幅に下回る状況の改善が難しいこと、つまり小中9学年が一緒に過ごすことができても1学年の人数が増える訳ではないとことがあげられています。以上が第2回のグループ協議の内容です。

続きまして、第3回のグループ協議のまとめです。テーマ1「仮に4中学校を1つに統合したとして、中学校と地域とのつながりを保つには」ということで話し合いをしていただきました。課題、不安、疑問については、これまでに4中学校で行なってきた地域と関わる活動を1つの中学校ですべて継続することが難しいのではないかと点があげられました。今現在4中学校で様々な活動を行っていますが、共通する活動で例えば地域への奉仕活動がありますが、実施日について時期や実施日が異なる状況がありますので、これを地域とも調整し一斉に同日にできないのかというアイデアをいただきました。次が胎内市全域を1つのフィールドにして各地域の人たちと一緒に課題解決に取り組む活動を積極的に進めるという点、そして全教職員も胎内市全体を学区として捉えた地域理解を促進する。これまでの学区に捉われず胎内市全体を職員も意識して教育活動を展開する必要があるというご意見をいただきました。続いて1中学校5小学校ということになると、小中連携の活動が希薄になるのではないかと点についてご指摘いただきました。これに対して小学校毎に中学校も連携担当職員を配置し、小中連携を積極的に行なうことが必要であろうというご意見をいただきました。また、小中学生による合同あいさつ運動等、今行われている日常的な関わりを何とかして継続したいという意見をいただきました。

続いて地域で行なう子どもが参加する行事が継続できるのかという点をあげていただきました。これに対しては中学生の地域行事への参加を更に高めるため、地域との関わりの大切さなどについて、これまで以上に子どもに働きかけを行なうことが、先ほど申しあげました胎内市全域をフィールドにする学習につながってくるので、学校が更に働きかけを続けていくことが必要です。

次に祭りの日を休業日にしたり、送迎バスを出したりするなど、中学生が胎内市全域の行事に参加しやすい環境を作るというご意見をいただきました。また、中学生ボランティア等を導入し参加を促すなど、地域のために自分の力を発揮する経験を中学生のうちからどんどん積ませてはどうかというお話をいただいています。

最後の課題では、統合までの準備が大切ではないかというお話をいただきました。これに対しては、学校行事への地域の方々の参画をこれまで以上に働きかけ、統合後の参画につなげるために、体育祭や合唱祭などに地域の方々の参画を今から促してはどうかというご意見をいただきました。

2つ目の「仮に4中学校を1つに統合したとして、きめ細かな指導体制を継続するには」というテーマでは、1つ目の課題、不安、疑問は4校の生徒が1校に集まることで、いじめ、不登校対策や学力向上など教職員のチームワークが課題となるのではないかというご意見をいただきました。これに対しては学年の教職員全員がその学年全員の担任であるという体制で生徒一人一人への指導支援に努めることが、学校の体制として必要だというお話をいただきました。それから学習指導補助員や介助員等、市の配置職員を手厚くすることや、地域からの学校支援体制を更に充実させることなど、特に地域コーディネーターや地域ボランティアをこれまで以上に活用できるようにすべきというお話をいただきました。

また、校務の見直しや効率化を更に進め、教職員が生徒と向き合う時間を十分確保する、いわゆる多忙化解消という点ですが、これを更に進めて生徒と向き合う時間を確保してほしいというお話をいただきました。また、人間関係などの不安を抱える生徒が増え、その受け皿が無いのではないかというお話をいただきました。学校生活に困り感を感じている生徒に寄り添い支援する校内適応指導教室やさわやかルーム等の対応を充実させる。これについては関係職員の増員等が必要ではないかというお話をいただいています。また、クラス替えにより人間関係の改善などの対応ができるのではないかという解決案をお話いただきました。

続いて教員の多忙化に拍車がかかるのではないかということに関しては、PTA等による通学支援や地域ボランティアによる学習支援など、家

庭や地域の支援、協力を得ることが大切ではないかというお話をいただきました。

そして、胎内市の中学生としての意識を醸成するため、統合前の交流が必要ではないかというお話については、交流活動の充実、例えば複数中学校による修学旅行、体育祭、音楽祭、学年行事等を統合前に実施することで交流できるのではないかというお話をいただいています。以上が第3回のグループ協議の内容です。

最後に胎内市教育の基本理念、これをもう一度お伝えしますが、「教育は人をつくり、地域をつくる崇高な営み」です。これに基づいて胎内市学校教育の重点は「地域とともに歩む学校づくり」としております。胎内市立小中学校の適正規模等に関することについて、答申でも胎内市において子どもたちが故郷を誇りに思いこれからの社会を切り拓いていく生きる力を身に付けられるような望ましい学校教育環境の整備に取り組むことが大切であるということが目的として示されています。これまでの話し合いとこれらを総括しまして、資料の黄色い四角の枠内にまとめを記載しています。子どもたちにとっての望ましい学校教育環境を整備することが最も優先すべきことであり、本委員会での意見を基に胎内市及び胎内市教育委員会は4中学校統合に向け、設置場所、通学方法、地域とのつながり、きめ細かな指導等について更なる検討を行ない、具体的な再編方針を定めていただきたいというところをまとめといたしました。

以上が第1回から第3回までの再編検討委員会の協議についてのまとめです。今、説明しました内容で更に付け加えてほしいことや、この委員会以外の方が見た際に、この表現では難しいのではないかというような箇所がありましたら、この場でお伝えいただくとありがたいのですがいかがでしょうか。お願い致します。

○委員

私は第3回を所要があり欠席しており、今説明を受けたところですが、この委員会は今後も継続となるのですか。

○指導主事（山沢）

予定としては今回が最終回です。

○委員

分かりました。では、それを基に今内容をまとめたお話を聞いたのですが、先回の会議録の中に、様々な問題解決にあたり行政がそれぞれのよ

うな手を打っていくのかとありましたが、このような検討委員会での我々委員の意見も大事なのですが、生徒の意見を聞く機会は果たしてあるのでしょうか。すべての生徒の意見を聞くということが適当かどうかは分からないのですが、今の中学生がどのように考えているのか意見を聞いた方が良いのではないかと思います。

それともう1つ、心配なのは統合により学校の先生方が地域との関わりや教育など総合的にあまりにも仕事が増えて、それは人数を増やせば対応できるかもしれないのですが、先生方への対応等も含めて少し考えておいた方が良いのではないかという気がします。そこはどのように考えていますでしょうか。

○指導主事（山沢）

ありがとうございます。中学生の考えを聞く機会、考えているかどうかということと、統合後の先生方の業務量が過多になってしまうのではないかとそれらの対応はどのように考えているのかという2点ということでしょうか。

1点目、中学生の考えを聞く機会ということに関しましては、現在のところ予定は立っていないのが正直なところです。今のご意見をいただきまして検討するということにはなりますが、現状の答えとしては今のところ、その機会を設けてはいないということになります。

2点目、先生方の負担が増えるということに関しましては、我々も非常に危惧しておりますし、委員となっている現在の中学校の校長先生からも今行っている4中学校分を全て1校で引き受けるのはなかなか難しいという話はグループ協議の中でもいただいています。その中でオール胎内として何が必要でどのように調整できるかという視点をこれから数年かけて話し合っていく必要があるということで、委員が今おっしゃられた心配な点、危惧される点は我々も充分把握しているということで、このグループ協議でもお話をさせていただいたところでございます。

現状今のような回答になります。

○委員

特に子どもたちの意見云々というのは、私の個人的な意見を話させてもらいますが、現状の中学3年生に現在の立場として意見を聞くのも1つの方法ではないかなということですが。例えば中学生が、自分が小学校4、5年という立場になったと想定して、このような状態になった場合にどのよ

うに思うのかということを知りたいかと思ってお聞きしましたが、今の説明で分かりました。

○教育長

ありがとうございました。今ほどの説明に補足しますが、答申いただいた小中学校適正規模等に関する検討委員会でもやはり子どもの意見を聞いたかどうかということになりました。その委員会では全部の子どもたちに聞くかどうかというところで、小学生や中学生1、2年生では統合と言われてもなかなか伝わらないところもあるだろうということになり、中学3年生は義務教育9年間経験してきていますので、市内の中学3年生全員に統合に関しての説明を丁寧にし、アンケートを取りました。そこでは子どもたちからの様々な意見があり、統合に関しては自分たちの学校に誇りをもっているということで、このまま続けてもらえればありがたいという3年生も多かったのです。ただし、そこで子どもたちが言っているのは、人数が少なくなればそれは難しいだろうという意見も多かったのです。地域に誇りを持ち、今の学校に誇りをもつことは、やはり大事なことだということで、その委員会ではその気持ちは大事にして、そして先ほどから言っているオール胎内で、地域としてのオール胎内の学校を誇りとするという思いをもってもらおうという方法がある。また、1学級が20人を大きく下回るようであれば、先々のことを考えて早めに統合等の再編を考えて行かなければならないだろうということを出していただいている訳です。ですので、出していただいた答申は、そういう子どもたちの意見も十分踏まえたうえで示していただいたということですので、今回改めて子どもたちの考えを聞くということは、今のところしなくとも良いだろうということを進めていますので、ご理解いただければありがたいと思っています。

○委員

分かりました。その答申は私も承知しているのだけれども、その経緯を今初めて教育長から聞いて分かりました。何しろ中学3年生であれば考え方もしっかりしてきているし、意見を聞くというのも良いのではないかとということで話しました。この委員会の前段の小中学校適正規模等に関する検討委員会で行っているのであれば、それで話は分かりました。ありがとうございました。

○指導主事（山沢）

ありがとうございました。他にございませんでしょうか。

<なし>

それでは、今いただいた意見も含めまして、今後、今日のまとめをもう一度、委員長、副委員長等とお話をさせていただき、最終的なものを皆様にまたお配りしまして、必要に応じてまた修正いただいて、事務局で再度検討するという形で進めさせていただきますがよろしいでしょうか。

<賛成>

ありがとうございます。以上で私の説明を終わりにいたします。

○委員長（近）

ありがとうございました。それでは後日、事務局より修正版をお送りしますのでよろしくお願います。ここで学識経験者として参加いただいています濱中委員よりお話をいただきたいと思えます。よろしくお願います。

○委員（濱中）

前回の閉会の挨拶の中で、塚野副委員長がこのようなお話をされてきました。胎内市の理念でもあります「地域とともに歩む学校づくり」ですが、地域と子どもたちがともに意見を出し合って考えていくことはとても大切であると実感しましたというお話がありましたので、まさにその方向で進めて行くのだらうと受け止めています。

私が現職の頃、中学校で中学生を交えた学校づくり委員会というのを年に何回か開いていましたが、中学生はきちんと未来を考える力をもっています。大人とつながっていく力ももっていますので、中学生も交えて学校づくりについて話合っていくという機会は1回で終わりではなく、何回あっても良いのではないかと思いますので、今とても貴重なご意見をいただいたと改めて思ったところです。

私の方からは、もしかすると新しい学校ができるかもしれないということも含めて検討してきたのですが、ハード面とソフト面を2つに分けて考えて行かないとごちゃごちゃしてしまうのではないかという気がします。

ハード面は予算を伴う内容なので、どんなに理念がたくさんあったとしてもそれを実現していくことが胎内市としては難しいということも当然あ

ります。いくらでもお金をかけて学校づくりができるのであれば、いくらでも夢を語ることはできますけれども、ハード面についてはどうしても限界があるので、その限界の中でこれまで統廃合を進めてきた全国の取組の中から胎内市にぴったり合うものを学び、この地域ならではのものに形を変えながら、ハード面をどのように整えていくかということを考える必要があると思います。前回は能登半島地震の後でしたので、防災に強い地域の拠点としての学校の役割もあるというお話をさせていただきましたが、そういうこともこれから考えて公共施設としての学校の価値も見直ししながら作っていく必要もあるのだろうと、そういった時に地域の声も聴きながら、作って行かなければいけないのだろうと思っています。

ハード面については、100点満点は難しいだろうと思っています。しかし、ソフト面はどのような教育、学びをしていくのか、どのような人材を投入していくのか、何を目指していくのかという教育の中身については100点満点をいくらでも目指せると思うのです。そのことについて準備をしていく時間はまだあります。そのことについて、これまで会議の中でも話をしてきましたし、まさにソフト面の内容については、子どもたちを巻き込んで準備をしていっても良いのではないかと考えています。どういう中身の学びをしていくかということについては、皆様も巻き込みながらアップグレード、更新していくことができる。ハード面は一旦作ってしまうと作り直すことはなかなか難しいですが、少しずつアップグレードしていくことはできると思うのですけれども、ソフト面については常に見直しをしていくことができるので、一旦、胎内市の教育理念に合わせて学校づくりをスタートさせても微修正しながら時代の要請に応じて更新を続けていけば良いだろうと思っています。

先ほど先生方の考え方はどうなのだという話が出ましたけれども、私は新任校長で中越の十日町市に行きました。若い先生方がなかなか遠隔地なものですから行き手が少なくて教員確保困難地域になっています。そこに行った時に当時の教育長が、「着任された先生方はほとんどが風の人だ、私たちは土の人だ。」という言い方をされたのです。「土の人、十日町に住まいがある私たちは、風の人である先生方を迎えて、先生方が運んで来てくれた種を一生懸命育てて、そして子どもたちに還元していきます。私たちにはその準備が出来ているので、どうぞ先生方、思い思いの種を十分にこの十日町で蒔いていってください。」とお話をされて私はすごく感動しました。胎内市もおそらく風の人の方が多いと思います。いろいろな所から先生方が来て、いろいろな考え方、価値観をもって来た時に、それをきちんと芽にして花にして実にすることができる土の人たちがいないと、それが

うまく実現されていないと思うのですが、こうやって会議を重ねること自体がこれからの学校づくりについて土づくりをしているのだと思いながら、この会議に参加させていただいて感じたところであります。丁寧な議論、そして準備、10年後を見据えてのこのような会議を積み上げている胎内市の取組に、繰り返しになりますが敬意を表したいと思います。本当にお疲れ様です。

○委員長（近）

濱中委員、大変貴重なご意見ありがとうございました。続いて事務局から今後の予定について説明があります。よろしくお願いいたします。

○学校教育課長（丹後）

本日確認した内容を、事務局の方で集約させていただき、委員の皆様にも再度お送りさせていただく予定としております。それに目を通していただき、その内容にご意見等ありましたら事務局へお知らせいただくという流れにする予定としています。詳しい方法につきましては、お送りする際にお知らせしますのでよろしくお願いいたします。以上です。

○委員長（近）

どうもありがとうございました。

(2)閉会

○委員長（近）

それでは、閉会のあいさつを塚野副委員長よりお願いします。

○副委員長（塚野）

皆様、年度末のお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございました。そして本日の第4回をもちまして全ての日程を終了することとなりました。皆様におかれましてはこの半年間に渡りご参加いただき、また多くの議論をされて大変有意義な話し合いができたことに感謝申し上げます。ありがとうございます。これまでを振り返りますとあつという間の半年間に感じました。それと同時に10年後というものもあつという間に来るのだなど実感したところでもあります。ですので、この会は非常に意義のある会であったと改めて感じることができました。

最後になりますが、今回の意見を基に今後、市が方針を定めていくこと
になりますが、胎内市の子どもたち、そして地域にとって希望ある学校再
編となることを大きく期待いたしまして本会を閉会させていただきます。
皆様、本日はありがとうございました。

○委員長（近）

以上で胎内市中学校再編検討委員会全ての日程を終了いたします。ご参
加いただきました皆様、半年間に渡りご尽力、ご協力に感謝申し上げま
す。私の委員長としての任務を解かせて頂きます。至らぬ点もございま
したが、どうもありがとうございました。

それでは進行を事務局にお返しいたします。

(3)教育長あいさつ

○学校教育課長（丹後）

4回に渡り、ご協議をいただきありがとうございました。皆様からいた
だきました貴重なご意見、ご提言等を参考に今後、市としての具体的な方針を
定めていくこととなります。この半年間のお力添えいただきましたことに心
から感謝を申し上げます。

最後に委員の皆様の中澤教育長よりお礼の言葉を申し上げさせていた
だきます。それでは、お願いいたします。

○教育長（中澤）

それでは、最後に皆様にお礼を申し上げたいと思います。近委員長、塚野
副委員長、そして学識経験者の濱中委員をはじめ各委員の皆様、半年間に渡
り、ご審議いただき本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

毎回、皆様方が地域住民、保護者、コミュニティ・スクール、学校運営協
議会、学校の代表として、胎内市の大人が子どもたちの現在、未来を真剣に
考えてくださる姿を拝見させていただいて、胎内市の子どもたちは、とても
幸せなのだたと改めて思うとともに感謝しておりました。そして、子ども
たちは、皆様の後姿をしっかりと見て成長し、やがては皆様と同様に子ども
たちのことを本気で考えてくれる大人になるのだろうとっております。

皆様の思いがこもった貴重なご意見を基に市及び市教育委員会で方針を
市民の皆様に分かりやすくお示しして、令和6年度中には方針を定め、その
後、具体的な準備を進めていきたいと考えております。

最後に、改めまして委員の皆様へ感謝申し上げますとともに、今後も胎内市の子どもたちのために、また、教育の充実のためにお力を貸していただきますようお願い申し上げます。お礼のあいさつとさせていただきます。本当にありがとうございました。

○事務局

以上で本日の日程を全て終了いたしました。皆様、どうもありがとうございました。